

日高軽種馬協 だより

HBA

日高軽種馬農業協同組合

☎0146-22-2258 FAX 22-3452

令和5年4月5日

396

第 号

第52回総代会終了 全議案承認される 新理事に矢野亨憲氏（静内）が就任

3月17日（金）午前10時30分より、新ひだか町公民館・コミュニティセンターにおいて、日高軽種馬農業協同組合第52回総代会がおこなわれ、全7号の提出議案すべてが承認された。

本年は開会に先立ち、4年ぶりに日本中央競馬会生産者団体表彰および、（公社）日本軽種馬協会特別指定競走表彰がおこなわれた。（詳細についてはともに別表参照）団体表彰では、門別軽種馬生産振興会、浦河町軽種馬生産振興会の2団体が、特別指定競走表彰では、第165回天皇賞（春）・第63回宝塚記念を制したタイトルホルダー号を生産した岡田スタッド（静内）ほか、7牧場が表彰を受けた。終了後、谷川副組合長より開会が宣言され、古川組合長の開会挨拶（2頁、3頁に全文掲載）に続き、日本中央競馬会菊田淳馬事担当理事、（公社）日本軽種馬協会上野義治副会長常務理事の来賓各位によるご祝辞の後、議事に入った。

議長については、久井直彦氏（三石）が選出され本人出席20名、書面決議による出席124名の計144名（出席率91.14%）の出席により総代会が成立し議事進行に移った。迅速な進行がはかられ全7号の提出議案が原案通り承認された。欠員のあった役員の新補欠選任については、静内地区より矢野亨憲氏が選出され、新役員へ就任となった。

議案途中には、「診療業務について、円滑に業務を遂行できるように各団体と協議しながら人材確保等に努めていただきたい。」という意見があった。これについて、古川組合長より「大変貴重なご意見をありがとうございます。北海道農済などと合同で相談しながら決めたい。」と返答があった。

また、全議案終了後には質疑応答がおこなわれ、「安全かつ防護策として北海道市場の馬房内にゴムマットを敷いてもらいたい。また、馬房の老朽化で今後改修の話が出た時には、馬に

ストレスの溜まらない馬房配置などの対策をお願いしたい。」という意見があった。これについて、古川組合長は「今後、市場委員会や理事会で検討し、対処に向けて努めたい。」と述べた。

提出された議案は次の通り。

1. 令和4年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案および注記表の承認について
→原案通り承認
2. 令和5年度事業計画ならびに収支計画の承認について
→原案通り承認
3. 令和5年度賦課金の賦課および賦課徴収の方法について
→原案通り承認
4. 役員報酬の支給について
→原案通り承認
5. 系統団体等に対する出資・出えんについて
→原案通り承認
6. 役員の新補欠選任について
→原案通り承認
7. 退任役員に対する退職慰労金の支出について
→原案通り承認



挨拶する古川組合長

第52回総代会組合長挨拶

皆様、おはようございます。第52回総代会の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

総代の皆様におかれましては、繁殖シーズンの大変ご多忙のところ、ご出席を賜りまして心より厚くお礼申し上げます。また、日頃より組合運営につきまして、多大なるご指導、ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

本日は、JRA日本中央競馬会菊田理事、公益社団法人日本軽種馬協会上野副会長をはじめ、ご来賓各位のご出席を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年も、コロナ禍に鑑み本総代会につきましては、昨年に引き続き、一部規模を縮小し開催させていただきますことをご理解賜りたくお願い申し上げます。

只今、本席上で表彰を受けられました皆様方におかれましては、心よりお祝いを申し上げます。

昨年は、国内外のGI競走を始め、重賞競走において日高産馬の顕著な活躍が目立った1年となりました。活躍馬を輩出されました組合員の皆様に心よりお祝い申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、国内経済はコロナ禍に加え、ウクライナ問題など国際情勢の緊迫化に伴い、国内経済は物価高騰、資材不足、円安などの影響を受ける1年となりました。

経済情勢が大変心配されましたが、北海道市場は大変盛況のもと開催させて頂くこととなり、売上総額165億1573万円と過去最高を更新する結果となりました。上場の組合員はじめ皆様方に心より感謝申し上げます。

競馬につきましては、令和4年の中央競馬の売上が3兆2539億円、前年対比105.3%と2年連続の3兆円越えとなったほか、地方競馬についても1兆651億円、前年対比110.4%と初の1兆円越えを達成しております。

競馬の売上増により、中央競馬の馬主への各種奨励対策、地方競馬の新馬導入の補助馬購買の拡充が図られました。活発なせりを支えて頂

いております。

組合事業につきましては、北海道市場事業を中心にお陰様で各事業とも計画通りの決算を迎えることができましたことに対し、重ねて感謝申し上げます。

本年も剰余金が出ましたので、市場利用割戻を始め剰余金処分案について本総代会にて提案させていただきます。

農政活動につきましては、昨年も生産等に関する協議会を通じ、JBBAと連携して中央要請をおこなって参りました。

本年よりJRA生産者賞の一般競走4・5着部分の交付や内国産所有奨励賞が7着まで拡大交付されるなど手厚い対応を頂くこととなっております。この場を借りまして、改めて感謝申し上げます。

競走馬生産振興事業につきましては、昨年秋の国会において競馬法が改正され、令和5年度から5年間の事業予算総額236億円と事業の恒久化が決定しております。軽種馬基盤対策、優良種牡馬・優良繁殖牝馬導入事業、労働力・後継者不足などの対策等、幅広く活用されることとなっておりますので、事業概要の詳細が決まり次第、皆様にお知らせさせていただきます。

日高軽種馬振興対策推進協議会より業務委託を受け、一昨年秋に旧門別種馬場にて運営を開始しました「ひだか・ホース・フレンズ」につきましては、これまで研修生30名余りを受け入れることができました。

軽種馬生産牧場の作業体験を通じ、軽種馬産業における就業者不足の問題解消に取り組んで参りたいと考えております。

診療事業につきましては、昨年、浦河診療所1名、門別診療所2名、計3名の獣医師職員の退職がございました。

門別診療所につきましては、静内の獣医師1名が異動し対応させて頂くこととなり、診療業務の一部縮小対応等、組合員皆様には多大なるご不便をお掛け致しておりますことを深くお詫び申し上げます。

現在、獣医師職員の確保に努めておりますので、ご理解を賜りたくお願い申し上げます。

昨年12月、静内地区の白井康博理事が亡くなられました。白井理事につきましては、平成28年より31年まで監事職を、平成31年より理事職を務められ、組合運営に携わって頂きました。心より感謝を申し上げますとともに、重ねてご冥福をお祈り申し上げます。

昨年3月より、木村前組合長より組合長職を

引き継ぎまして、組合員始め役職員の皆様に支えられて、総代会を迎えることができました。まだまだ力不足ではございますが、ご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます

最後になりますが、上程しております全議案につきまして、総代皆様のご審議を賜り、有意義な総代会にさせていただきたくお願い申し上げます。甚だ簡単ではございますが、開会のご挨拶とさせていただきます。本日は宜しくお願いいたします。

令和4年度 JRA生産団体表彰・JBBA特別指定競走会長賞 表彰者一覧

令和4年度 JBBA特別指定競走会長賞

(敬称略)

地区	生産者名	馬名	優勝レース名
浦河	(有)三嶋牧場	メイショウハリオ	第45回帝王賞
三石	(有)ケイアイファーム	ダノンスコーピオン	第27回NHKマイルカップ
静内	岡田スタッド	タイトルホルダー	第165回天皇賞(春)
			第63回宝塚記念
	(有)千代田牧場	ウシュバテソーロ	第68回東京大賞典
門別	(有)天羽牧場	ショウナンナデシコ	第34回かしわ記念
	坂戸牧場	ナランフレグ	第52回高松宮記念
	(有)下河辺牧場	ノットウルノ	第24回ジャパンダートダービー
		ドルチェモア	第74回朝日杯フューチュリティステークス
	(有)ヤナガワ牧場	テーオーケインズ	第22回JBCクラシック



J B B A表彰 (左より、(有)ケイアイファーム様、(有)天羽牧場様、岡田スタッド様、坂戸牧場様、JBBA上野副会長、(有)三嶋牧場様、(有)下河辺牧場様、(有)ヤナガワ牧場様、(有)千代田牧場様)

令和2年度 JRA生産者団体表彰(敬称略)

第1位	胆振軽種馬農業協同組合
第2位	門別軽種馬生産振興会
第3位	浦河町軽種馬生産振興会

ウシュバテソーロ

世界の頂点に立つ

3月25日、ドバイ・メイダン競馬場でおこなわれた第27回ドバイワールドカップ（ダート2000m）で1頭の日高産馬が快挙を成し遂げた。ウシュバテソーロ（静内・(有)千代田牧場生産）が大外一気の強襲でヴィクトリーロードを駆け抜け、日本馬としては2011年にヴィクトワールピサが勝利して以来12年ぶりに世界の頂点へと上り詰めた。

1996年に国際招待競走として設立されたドバイワールドカップは日本馬の挑戦の歴史でもある。1996年から2009年まではドバイ・ナドアルシバ競馬場（ダート2000m）でおこなわれており、2001年のトゥザヴィクトリーの2着が最高着順で、幾多の名馬が世界の高い壁に跳ね返された。2010年からは現在のメイダン競馬場へと戦場を移し、2014年まではオールウェザーでおこなれ、2011年にはヴィクトワールピサとトランセンドの日本馬ワンツー快挙が達成されたが、以降は厳しい戦いが続いた。2015年からは再びダートでのレースになり、2021年にはチュウワウィザードが2着と戴冠まであと一歩まで迫っていたがダート競走でのドバイワールドカップでは、1度も勝利がなかった。

そのような歴史があるなか、今年は8頭の日本馬が参戦。サウジカップを制したパンサラッサ（静内・木村秀則）やテーオーケインズ（門別・(有)ヤナガワ牧場）といった日高産馬のほか、昨年のジャパンカップを制したヴェラアズール、昨年のチャンピオンズカップを制したジュンライトボルト、昨年のJRA賞最優秀ダートホースに輝いたカフェファラオなど国内の猛者たちが

高い壁へ挑んだ。

それらを迎え撃つのは米国のカントリーグラマー。昨年のこのレースの覇者であり、前走のサウジカップでも日本馬が上位独占しようとするところを大外から強襲し、パンサラッサの2着となっており、最終的に日本国内のオッズでは1番人気に支持されていた。

レースが始まると、大外枠からパンサラッサがやや出負け気味にスタートすると先頭を目掛けて押していくものの、リモースをはじめとした海外勢がそれを許さず激しい先頭争いになり、1コーナーを回る頃には早くも縦長の隊列となる。ウシュバテソーロは最後方でレースを進める展開となった。その後もペースは緩むことなく進み、4コーナー手前では各鞍上が激しく手を動かしながら直線へと向かう。英国のアルジールスとUAEのベンドゥーグが先行集団から抜け出し後続を突き放しにかかるころ、先にベンドゥーグが脱落しアルジールスが懸命に力を振り絞るが、後方から猛追を開始したウシュバテソーロの勢いは違っていた。カントリーグラマーらを並ぶことなく抜き去ったその脚色は先頭との距離をみるみる詰めていく。内で脚を溜めたテーオーケインズが併せ馬へと持ち込むシーンも見られたが、それも振り切り残り150m付近で先頭に立つとあとは突き放す一方だった。

レース後、オーナーの了徳寺健二ホールディングスより“凱旋門賞挑戦”のプランも報道された。父オルフェーヴルは日本馬として凱旋門賞制覇に最も近づいた。この挑戦を心より応援したい。

ファストフォース 究極の力比べを制す

3月26日（日）、中京競馬場で第53回高松宮記念（GⅠ・芝1200m）がおこなわれ、ファストフォース（浦河・有）三嶋牧場）が勝利し、春のスプリント王者に輝いた。

ファストフォースは、短距離王の父ロードカナロアに、函館2歳ステークス2着などの実績がある母ラッシュライフ、その父サクラバクシンオーというスピードにスピードを重ねた血統背景を持つ。3歳6月にメロディーレーンが勝った芝2400mの未勝利戦でデビューするものの敗れ、その後は中京や小倉の未勝利戦で2着まで着順を上げていたがJRAでの勝ち上がりは叶わなかった。年を経て、門別競馬場から再スタートすると初戦を勝利で飾った。続く1800m戦では4着に着順を落としてしまうものの、1200mへ距離転換したあとに連勝を果たし、JRAへと復帰することとなった。

復帰後は、1勝クラスと2勝クラスで連勝し難なく準オープンまで出世するが、このクラスを即突破とはならなかった。それでも格上挑戦で挑んだCBC賞（GⅢ）では、当時の日本レコードとなる1分6秒で駆け抜け重賞初制覇を達成するなど、優秀なスプリンターとしての素質を開花させていった。しかし、その後は重賞での善戦はあったが、なかなか勝ち星に恵まれないレースが続いていた。持ち前のスピードを武器に先行して押し切りを狙う王道のレースぶりから、中団に構え差し脚を伸ばすようなレースをすることも可能になり、前哨戦となったシルクロードステークス（GⅢ）では上がり3ハロン2位となる33.1秒の末脚を繰り出して2着となっていた。

迎えたレース当日。週末にかけて下り坂となった空の影響で不良馬場での開催となり、芝のレースでは軒並み遅い走破時計になっていた。そうした状況に拮抗した人気となっていたが、メイケイエールが1番人気となり、2番人気にはナムラクレア、さらにアグリと続き、ファストフォースは12番人気と伏兵の扱いとなっていた。

レースでは、内枠に入ったキルロードやダディーズビビット、オパールシャルムらが流れをつくり最初の3ハロンを35.6秒で折り返す。その流れにメイケイエールはやや掛かり気味に馬群のなかで運び、その外に蓋をするかのようにアグリが追走、その真後ろにファストフォース、ナムラクレアと続いた。4コーナー手前、レースを引っ張る3頭の外を楽な手応えでアグリが進出し、先頭に立つ勢いで最後の直線を迎えた。荒れた馬場の内側を嫌い、各馬が馬場の中央から外を狙い馬群が横に広がり真っ向勝負の力比べとなり、先に抜け出したアグリを目がけて内からファストフォース、外からナムラクレアが襲いかかる。残り200m付近でファストフォースが先頭に立つと、ナムラクレアの追撃をしぶとく凌ぎ切り鞍上が喜びを爆発させながらのゴールとなった。

マル地のJRA平地のGⅠ制覇は2002年桜花賞のアローキャリー以来21年ぶりの快挙だが、JRA→NAR→JRAと所属を変更してのJRA平地GⅠ制覇は史上初のできごと。7歳でのGⅠ初制覇となり、遅咲きの新星誕生となったが益々の活躍を期待したい。

新役員執行体制について

第52回総代会において新役員の決定、ならびに第4回理事会において、各委員構成が決定しましたのでお知らせいたします。

矢野 亨 憲 (新任)
守矢 正 嗣
稲原 昌 幸

〔役員〕

代表理事組合長	古川 雅 且
副組合長理事	谷川 貴 英
理事	中脇 一 幸
〃	木村 晃 悦
〃	市川 久 憲
〃	上山 泰 豊
〃	田上 則 久
〃	前川 裕 之
〃	田中 亨 憲 (新任)
〃	矢野 博 之
〃	村上 正 嗣
〃	守矢 宏 志
〃	庄野 正 普
〃	梁川 昌 幸
〃	稲原 康 成
代表監事	谷岡 康 成
監事	山際 景 路

〔総務・診療委員会〕

委員長	中脇 一 幸
副委員長	木村 晃 悦
	上山 泰 憲
	矢野 亨 憲 (新任)
	守矢 正 嗣
	庄野 宏 志

〔市場委員会〕

委員長	村上 博 之
副委員長	梁川 正 普
	市川 久 憲
	田上 豊 豊
	田中 裕 之
	稲原 昌 幸

〔業務・配合委員会〕

委員長	前川 則 久
副委員長	庄野 宏 志
	中脇 一 幸
	木村 晃 悦
	上山 泰 憲

理事会の内容について

【第4回理事会】

◇令和5年3月28日 13時00分 静内支所

〈報告事項〉

1. JBBA第1回・第2回理事会、令和5年度通常総会の内容について
2. 令和5年度JRA運営審議会の内容について
3. 第2回市場委員会の内容について
4. 第4回総務・診療委員会の内容について

〈議案〉

1. 各委員会の委員構成について
2. 余裕金の預入先の決定について
3. 退任理事に対する退職慰労金の支払方法の決定について
4. 理事報酬の支給ならびに支給方法の決定について
5. 給与規程の一部変更について

人事異動のお知らせ

【退職】

在職中は大変お世話になりました

〔3月31日付〕

高橋 真実

総務部総務課経理係

【採用】

〔4月1日付〕

三浦 耀平

診療事業部診療課門別診療所

【採用・契約】

〔4月1日付〕

佐原 穂乃香

総務部総務課総務係

2023年度北海道市場申込予定馬（1歳）事前調査の結果について

先般、組合員皆様に郵送させていただきました「北海道市場申込予定馬（1歳）の事前調査」が終了し、とりまとめ作業が完了いたしました。この度、調査対象とさせていただきます日高・胆振・十勝軽種馬農協の組合員皆様よりご回答いただいた本年度の上場予定頭数をまとめましたので、下記の通りご報告いたします。
この度の調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

2023年度 北海道市場 市場別上場予定頭数

(調査対象：608件／回答件数：529件／回収率：87.01%)

・セレクションセール	650	頭
・サマーセール	1,161	頭
・セプテンバーセール	364	頭
・オータムセール	101	頭 (新規申込)
合計	2,276	頭

《参考①昨年度の名簿掲載頭数》2022年度北海道市場 名簿掲載頭数（員外申込含む）

・セレクションセール	311	頭
・サマーセール	1,293	頭
・セプテンバーセール	589	頭
・オータムセール	487	頭 (新規申込)
合計	2,680	頭

《参考② 昨年度の事前調査結果》2022年度北海道市場 市場別上場予定頭数

(調査対象：619件／回答件数：507件／回収率：81.91%)

・セレクションセール	552	頭
・サマーセール	1,138	頭
・セプテンバーセール	401	頭
・オータムセール	102	頭 (新規申込)
合計	2,193	頭

以上の調査結果を基に、本年度の市場運営や今後実施を予定しております市場PR等の販売促進活動にて有効活用させていただきます。

また、皆様におかれましては市場申し込みのご参考になればと存じます。

繁殖牝馬が子馬を育児拒否するとき

静内診療所 川越美琴

母馬が自分の子馬をうまく受け入れられないために、乳母付けや、人工哺乳への切り替えなどの対策を迫られた経験はありますか？母馬に乳母付け処置をしたり、鎮静をかけたり、ホルモン治療を実施してもらったことがある方もいるかもしれません。

今回は馬の育児拒否（Foal Rejection・ネグレクト・育児放棄・虐待）について話します。

●育児拒否にあたる行動

次の行動は、母馬が育児拒否をしている指標のひとつになります。

お産後に子馬を舐めない・子馬が遠ざかった時に子馬を鳴いて呼ばない・子馬から逃げる・子馬への授乳を嫌がる・子馬に対して耳を絞る・子馬を嘔むまたは嘔もうとする・しつこく追いかけて回す・蹴る

多くの場合、分娩後数日以内に子馬を傷つけ、ひどい時には嘔んで振り回したり、投げ飛ばしたり、踏みつけたりして殺したりしてしまうようです。

●育児拒否の原因

原因は以下のように様々であると考えられています。

初産での経験不足による恐怖・遺伝・産んだあとの早すぎる人間の介入・治療などによる子馬の匂いの変化・後産が落ちる時の痛みやストレス・乳腺炎や乳頭のケガまたは過剰な吸引による痛み・ホルモンバランスの乱れ・子馬の低酸素脳症

馬のふるまいをよく観察することで、対策の手がかりにつながるかもしれません。

●育児拒否への対策

原因によってアプローチも変わりますが、後的な育児拒否を避けるために、分娩後の子馬に羊水の匂いを残しておくこと、子馬の治療の際は処置している所を母馬に見せておくこと、また授乳を痛がる時は治療してあげることができます。

母馬の攻撃性が低ければ、子馬が乳を飲みに行くときに母馬をつないでもっておくだけで授乳に慣れる場合があります。子馬を怖がる場合は、広い場所にはなすと落ち着くことがあります。また、犬や他の馬など第三の脅威を近づけることで、子馬を守りたくなる場合もあるようです。ただし、危険を感じる場合には人と子馬の安全を最優先に行動してください。

最後に、欧米で新しく提案されている治療方法として、高容量のPG を投与する方法があることを紹介させていただきます。この方法では上手くいけば30分ほどで子馬を許容するそうです。

詳しくは日高育成牧場の村瀬先生が記された「乳母づけにおけるPGF2 α の利用」という記事をぜひ読んでみてください。

<https://blog.jra.jp/shiryoushitsu/2022/02/pgf2-8e7e.html>

子馬の移行免疫不全による病気の重篤化、母馬の攻撃によるケガ、人工哺乳の労力や乳母の費用などが、実の母馬を治療することで減らされればいいと思います。

育児拒否の治療を検討したい方は、かかりつけの獣医さんに相談してみてください。